

白斑に対するメイクアップケア外来は白斑患者のQOLを改善する

京都大学大学院医学研究科皮膚科学

谷岡 未樹

Background Cosmetic camouflage is important for patients with vitiligo vulgaris. However, few studies have investigated its benefit for vitiligo patients.

Objectives To analyze the psychological effects on patients with vitiligo vulgaris by camouflage lessons performed in vitiligo clinics in Kyoto University Hospital and Fukui Red Cross Hospital, Dermatological Life Quality Index (DLQI) questionnaires were collected before and one month after camouflage lessons.

Patients Patients with vitiligo vulgaris, who visited our clinics in 2008 and had never experienced camouflage, were enrolled in this study. They took camouflage lessons and continued subsequent self-camouflage for one month. Control patients took no lessons and no camouflage.

Results Camouflage improved the scores of Dermatological Life Quality Index (DLQI), compared with those without camouflage ($p=0.005$). Camouflage improved DLQI scores from 5.90 to 4.48. In DLQI subcategories, camouflage lessons improved a subcategory of “symptoms and feelings” ($p=0.0037$).

Conclusions These data supported the idea that camouflage for patients with vitiligo not only covers the white patches but also improves their quality of life.

1. 緒言

京都大学皮膚科では2005年4月より白斑専門外来を開設し、これまでに200例以上の「白斑」を呈する疾患を集積してきた¹⁾。また、2007年より色素異常症に対するメイクアップケア外来を定期的に開催している。2008年10月より福井赤十字病院皮膚科でも同様に白斑専門外来とメイクアップケア外来を立ち上げた。我々はこれまでに、「白斑」を呈する疾患の鑑別診断およびその治療ならびにメイクアップケア外来を通じて得られた化粧ニーズやカモフラージュメイクの工夫について報告してきた¹⁻⁹⁾。

尋常性白斑の治療は、ナローバンドUVB治療の進歩によっても、その効果が現れるまでには一定の時間を要するし、治療に反応しない患者も存在する。また、尋常性白斑は生命を脅かす疾患ではないが、病変が目に見えるため、特に露出部に病変が存在する場合にはその心理的および社会的影響は大きい。そこでカモフラージュメイクが重要な役割を果たすことになる。白斑を他人から見えなくすることで患者は安心感を取り戻し、高いQOLにつながる⁵⁾。京都大学皮膚科および福井赤十字病院皮膚科ではメイクアップケア外来を開設し、白斑患者のメイク指導に当たっている。その過程で、様々なカモフラージュメイク技法を患者に紹介し、新規のカモフラージュメイクにおける工夫を行

ってきた⁶⁾。広範囲の白斑に対しては境界部にグラデーションを付けてコントラストをなくすことで非常に目立ちにくくなる。また、カモフラージュメイクが日常生活中に落ちてくることが課題であったため行われるようになった工夫が非アルコール性皮膜（キャビロン[®]）を用いたメイク後のカバーである^{7,8,9)}。カモフラージュメイクにより白斑は全くわからないようにできるが、それだけにカモフラージュメイクが他人の前ではがれ落ちることはなんとしても避けたい。非アルコール性皮膜をメイク後に使用することで入浴するまでメイクが落ちないようにした。本研究では、これらの工夫をふまえて、メイクアップケア外来が尋常性白斑患者に与える影響についてDermatology Life Quality Index (DLQI)を用いたアンケート調査により評価した。また、3年間におけるメイクアップケア外来のまとめについて報告する。

2. 実験

メイクアップケア外来が尋常性白斑患者のQOLに与える影響を、両施設の倫理委員会の承認を経て、メイクアップケア外来受講前後におけるDermatology Life Quality Index (DLQI)を用いたアンケート調査で評価した¹⁰⁾。対照群はメイクアップケア教室を受講していない白斑患者とした。メイクアップケア外来はボランティアスタッフにより行われ、使用するメイク用品は患者に無償提供された。研究はヘルシンキ宣言に基づいて、倫理委員会の承認を受けたプロトコル通り実施された。

メイクアップケア外来受講者は、受講前と受講後1ヶ月目にアンケートに回答した。また、メイクアップケア外来の非受講者は、1ヶ月の間隔を空けてアンケートに回答した。メイクアップケア外来を受診するかどうかは、患者の



Camouflage for patients with vitiligo vulgaris improved their quality of life

Miki Tanioka

Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan.

自由意志を優先した。

3. 結果と考察

メイクアップケア教室に参加した患者のプロフィールについて、患者の年齢、罹病期間、性別は受講群と非受講群に優位差はなかった。露出部の病変は受講群の方が高い比率であった。メイクアップケア外来を受講して白斑に対してカモフラージュメイクを行っている患者はDLQI総スコアが5.90から4.48に改善した(図1)。一方、非受講群では、DLQI総スコアが3.18から4.36に悪化した。両群におけるこの変化は優位差をもっていた($p<0.005$)。

非露出部に病変のある患者を除いた27人について解析してみても、カモフラージュメイクはDLQI総スコアの改善と関連していた($P=0.01$)。

DLQIサブスコアについてその変化を表にまとめた(図2)。6つのサブスコアのうち、メイクアップケア外来受講群では症状/感情のスコアが改善していた。これは、カ

モフラージュメイクにより服装や日常生活の自由度が増したことによると推測された。

2007年10月から2010年9月までの3年間でメイクアップケア外来に105名の患者が受診した。参加したのは男性18人、女性87人であり、男女比は1:4.8であった。年齢は1歳から81歳まで分布し、平均年齢は48.6歳であった(表1)。疾患の内訳は尋常性白斑(78人)が74.3%を占めた(表2)。その他に全身性エリテマトーデス(4人)、円板状エリテマトーデス(3人)、術後瘢痕(3人)、酒さ(3人)と続いた。メイクアップケア外来を施した部位は顔面78人(74.3%)、手24人(22.9%)、頸部16人(15.2%)、体4人(3.8%)、下肢3人(2.9%)であった(表3)。なお、105名の患者のうち10名は2回以上メイクアップケア外来を受診していた。

4. 総括

これらのアンケート結果から、本研究で行われたメイク

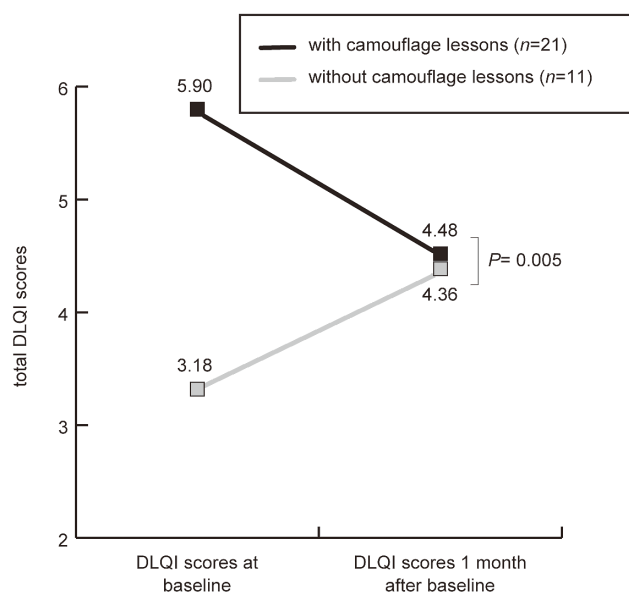


Figure 1 Total DLQI scores of vitiligo patients with or without camouflage.

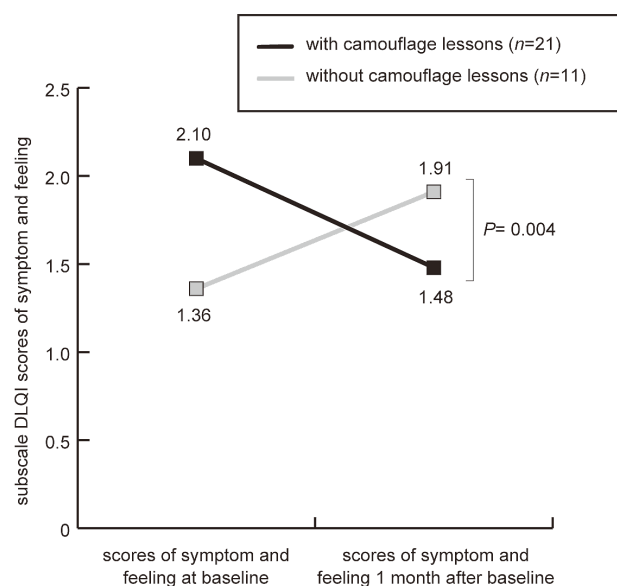


Figure 2 Scores of "symptoms and feelings" of vitiligo patients with or without camouflage.

Table 1 Ages of the patients participating Make-Up Care Clinic.

Age	Number of patients
0 ~ 10 y.o.	7
10 ~ 19 y.o.	9
20 ~ 29 y.o.	9
30 ~ 39 y.o.	12
40 ~ 49 y.o.	5
50 ~ 59 y.o.	14
60 ~ 69 y.o.	24
70 y.o. ~	25
Average	48.6 y.o.

Table 2 Sites for camouflage at the Make-Up Care Clinic.

Sites	Numbers (%)
Face	78 (74.3%)
Hands	24 (22.9%)
Neck	16 (15.2%)
Body	4 (3.8%)
Lower extremities	3 (2.9%)

(Sites can be overlapping.)

Table 3 Skin diseases of the Make-Up Care Clinic patients.

Disease name	Patients number (%)
Vitiligo Vulgaris	78 (74.3%)
Systemic erythematodes	4 (3.8%)
Discoid erythematodes	3 (2.9%)
Postoperative scar	3 (2.9%)
Rosacea	3 (2.9%)
Dermatomyositis	2 (1.9%)
Vogt-koyanagi-Harada disease	2 (1.9%)
Hyperpigmentation due to anti-cancer drugs	2 (1.9%)
Angioma	2 (1.9%)
Café-au-lait spots	1 (1.0%)
Posttraumatic scar	1 (1.0%)
Alopecia	1 (1.0%)
Dyschromatosis symmetrica hereditaria	1 (1.0%)
Porokeratosis	1 (1.0%)
Scleroderma	1 (1.0%)

アップケア外来は白斑患者のQOL改善に貢献していると考えられる。ただし、メイクアップケア外来に参加を表明しなかった患者は、受講者に比べて、もともとQOLが低下していた可能性や、治療に積極的でなかった可能性がある。しかし、このような臨床試験では、厳密な意味での対照群を設定することが難しい。本調査により、少なくともメイクアップケア外来は患者のQOL向上に貢献する可能性が示唆される。カモフラージュメイクは医学的治療ではないが、カモフラージュメイクが適応となる患者に対しては、患者の同意があれば積極的に導入してよい選択肢の一つであると考えられた。

(文 献)

- 1) Tanioka M, Yamamoto Y, Kato M, Takahashi K, Miyachi Y. Vitiligo vulgaris and autoimmune diseases in Japan: a report from Vitiligo Clinic in Kyoto University Hospital. *Dermato-Endocrinology* 1 (1) : 43-5, 2009.
- 2) Matsunaga H, Tanioka M, Utani A, Miyachi Y. (Corresponding author) Familial case of piebaldism with regression of white forelock. *Clin Exp Dermatol* 33 (4) : 511-2, 2008
- 3) Tanioka M, Takahashi K, Miyachi Y. Narrow band ultraviolet B therapy for inflammatory vitiligo with raised borders associated with Sjogren syndrome. *Clin Exp Dermatol* 34 (3) : 418-20, 2009.
- 4) 谷岡未樹、宮地良樹 ビタミンD3は尋常性白斑に有効か？. **EBM皮膚疾患の治療** p186-190, 2008-2009.
- 5) Tanioka M, Yamamoto Y, Mayumi Kato, Miyachi Y. Camouflage lessons for vitiligo patients improved their quality of life. In submission
- 6) Tanioka M, Miyachi Y. Camouflage for vitiligo (Review Article). *Dermatol ther* 22 (1) : 90-93, 2009.
- 7) 谷岡未樹、宮地良樹 非アルコール性皮膚膜キャピロンを用いた尋常性白斑のメーキャップ法. **臨床皮膚科 増刊号「最近のトピックス2008」** 62 (5増) : 140-143, 2008.
- 8) Tanioka M, Miyachi Y. Waterproof camouflage for vitiligo of the face using CavilonTM 3M as a spray. *Euro J Dermatol* 18 (1) : 93-94, 2008.
- 9) Tanioka M, Miyachi Y. Camouflaging vitiligo of the fingers. *Arch Dermatol* 144 (6) : 809-810, 2008.
- 10) Tanioka M, Yamamoto Y, Katoh M, Miyachi Y. Camouflage for patients with vitiligo vulgaris improved their quality of life. *J Cosmet Dermatol* 9 (1) : 72-5, 2010.